G.R.
白雲郷

# とりお

30周年記念号
45年10月1日

16

白雲山の地蔵堂前に、水野梅暁老師手植の白雲木があります。

六月ともなれば表紙画の様な純白の清い花が咲き匂いて参拝者の目を楽しませます。鳥居観音のマークはこの花を図案化したものです。

## 目　　次


○表　　紙……白雲木……中谷健次画伯

○鳥居観音30年の歩み……桐　江　1頁

○印度附近の旅路（その六）……桐　江　7頁

○西　遊　記(その十一)……岡部千三　11頁

○救世大観音建立経過……15頁

○壱萬体観音ご奉納者ご芳名(その二)……17頁

○壱萬体観音ご奉納申込用紙……23頁

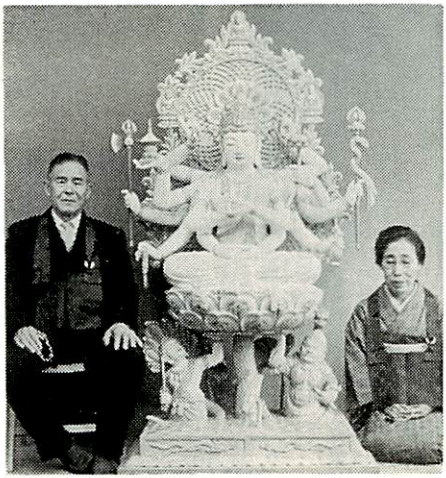
○夏の行事・秋の行事……24頁

# 白雲山 鳥居観音 三十年の歩み

## 鳥居観音発願主母しげ子

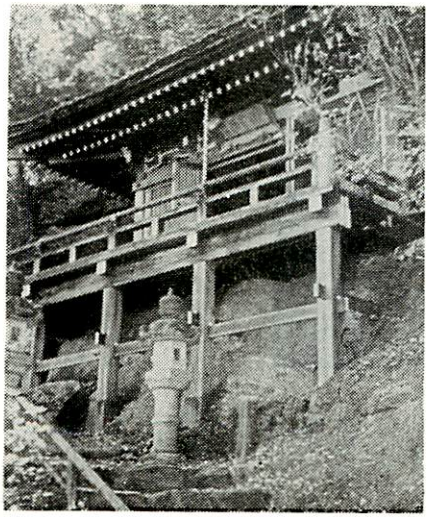
母「信行院徳室妙鑑大姉」は大正五年、四十八才の若さで亡くなりましたが、観音信仰に徹していただけに其の死に顔は実に美しく、慈愛にみちていて、今だに瞼にやきついております

昭和三十五年に**准胝仏母**観音を彫刻の折は瞼に浮ぶ母の顔をモデルにしました



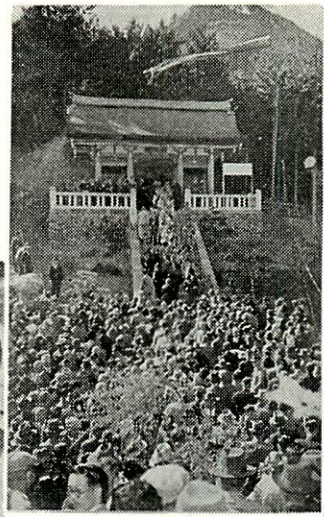
## 観音堂（今の大黒殿）

母が生前、今の奥の院の場所に観音堂を造るよう依頼されたのを、多忙のため十年も手をつけなかった親不孝の私でした。ところが大東亜戦も酣になる頃、いつ出征するかわからぬ私は、大急ぎで観音堂を造る事を決意し、時の仏彫大家三木宗策先生に師事して、聖観音と梵天・帝釈天を彫刻し、又堂宇は母の指定した所の岩を切り開いて建立して、曹洞宗管長　鈴木天山猊下お導師のもとに開眼落慶式を挙行したのが昭和十五年四月ですから本年は丁度**満三十年**になります

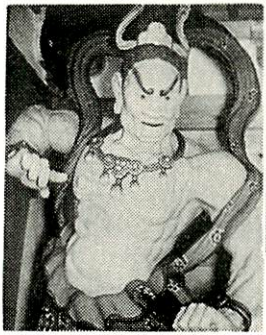


## 仁王尊

仁王尊の彫刻は銃後の仕事に追われて十年を要しました。始めは三木先生、仕上げは沢田先生の御協力により二十七年完成しました



仁王門落慶式(昭和27年)



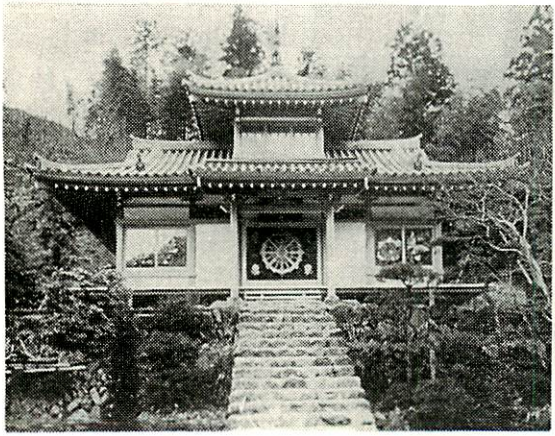
←― 仁王尊（身高2.5米）―→

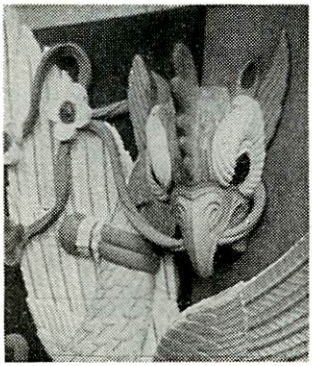
落慶式の折おかごで登られた平林寺の峰尾大休老師(九十二才)の「喝」の大声が全山にこだまして参会者一同吃驚仰天したものです

## 本堂と其の増築

白雲山麓に七観音を奉安する小さな本堂（間口六間奥行三間）を建築しました。屋上にはブロンズ製天女像（沢田先生作　二・八米）が空にそびえております。

天井及壁面は野生司画伯、入口硝子戸三枚には金箔にて大法輪（小川先生）窓硝子戸八枚は互井画伯、格天井二十枚は現代一流の画伯筆、須弥壇には迦陵頻伽をとりつける等若い人にも親しまれるよう工夫して三十四年に完成しましたが、其後裏山を切り開いて防火建築に





天上鳳凰の顔

て六坪ばかりの七観音を奉安する奥殿を増築し此天井には鳳凰（五米）や壁面にも二十数体の天女と胎蔵界曼陀羅等の木彫を取りつけて昭和四十二年五月高階猊下により落慶式を挙行しました。

**地蔵尊**

お堂は檜の大節材で建築し、本尊は檜の根株で台座共一木彫りです。昭和十七年完成。

**七観音**

其後十五年を費して七観音の彫刻を致しました。

十一面観音は沢田先生の作で、埼玉銀行より奉納されたものです。

## 三　蔵　塔

玄奘法師は、千二百年前、印度に渡り十七年間勉学し、大乗仏教の基礎を築いた偉人で、日本仏教の発展に偉大な貢献をした大恩人であります。

昭和十七年、南京駐屯の高森部隊が作業中、玄奘の頭骨を納めた石棺が発掘されたので、日本に分骨されたのを、水野梅暁老師が、其の一部を鳥居観音に寄贈されて塔建立を懇望されました。私は老師の遺志を果すべく決意し想をねる事数年、次のような塔の設計をしました。総高百〇八尺、一階四角、二階八角、三階十六角としまして外部は色々の彫刻で飾り、壁面は沢田先生のレリーフを取りつけ、又内部には三蔵法師霊骨塔や仏舎利塔を奉安し、壁面には四階迄全部に児玉希望画伯筆により三蔵法師の一代記が画かれて居ります。

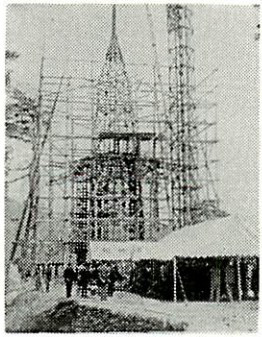
法師納骨塔

三蔵塔入口の香炉

設計は今津技師、工事は松井建設が請負いまして、昭和三十五年十二月、高階猊下により、盛大な落慶式が挙行されました。

当代の有名人三百六十余名の発起人と二千余名の賛助員を得ましたので三十三年第一回の発起人会が開催され、石橋湛山先生が発起人総代に選任されました。

↑落慶式の祝宴に於ける石橋総代の挨拶


←三蔵塔上棟式（三十三年）

**庫裡**（四十余坪）昭和三十三年落成しました。

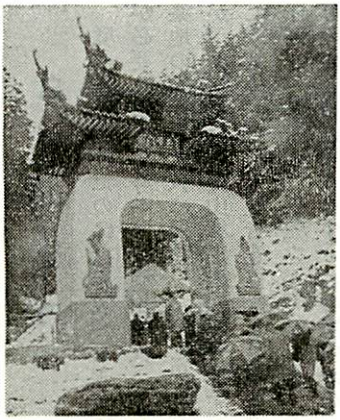
**第一文庫**（二十六坪）は三十三年に、**第二文庫**（三十坪）は三十五年に完成しました。

**大黒殿**　奥の院の聖観音が本堂に移されたので大黒天を彫刻して奉安したので、大黒殿と改名しました。

三十五年は玄奘三蔵法師千三百年祭に当るので法師の銅像（二米）を建立しました。

三蔵塔と法師の銅像

## 雪中の玉華門落慶式



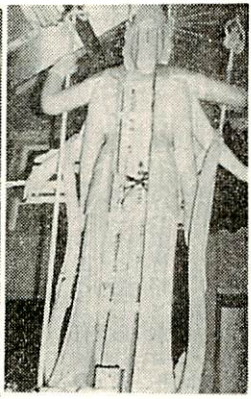
昭和四十三年支那門（十一米）が完成しました。高階猊下が玉華門と命名され額字は御遷化直前の御染筆であります

## 救世大観音（建立中）

敗戦後の日本は思想混乱し物質文明のとりことなり其反面美しい日本の良い伝統や宗教心はむしばまれてこのまま進む時は日本の破滅となり甚だ寒心に堪えないものがありますので之を平和日本に導くため、白雲山頂（五百米）最も景勝の地に救世大観音を建立してこの偉大なる妙智力により一切衆生を済度し賜らん事を念願して余生を之が完成に精進努力中であります。

## 体内納経式

私の彫刻した仏像は皆、胴体をくりぬいて中に高僧等に書画を書いて頂いたり役員や出席者の氏名を書き、沢山の写経や色々の品物を納めて納経式を厳粛に挙行しました。



## 白雲山境内

境内地を設けたのは鳥居観音を永久に維持する財源が必要な事と、今一つは徳川時代より発展した西川林業地の林相を永久に保持したいと思い、私と長男邦彦が、火打沢などの山林宅地約四万三千坪を奉納しました。其後、救世大観音建立により諏訪の入り約一万七千坪を平沼家当主孫宏之が奉納しましたので合計約六万坪の寺領となります。この境内地の三分の二は杉檜の植林地で三分の一は雑木林です。この雑木林を山桜つつじ、其他美しい花の咲く木とか紅葉するもみじ等の木を育成する為め悪木を除いたり安行から一万余本の苗木を買求めて植樹して、数百年後には鬱蒼たる美林となる事を夢見つつ三十年努力しつづけてきました

三蔵塔に登る自動車道

観音滝

そしてスモッグになやまされている都民が白雲山にレジャーを楽しみながら知らず知らずの内に此の観音の大慈悲に浴して人間性ゆたかな日本民族が芽ばえて来るのに少しでも役立つ様になれば有難いと思います。

白雲山や観音滝方面は自動車、歩道其他の諸施設が漸次完備しつつあります。

## 三十年の回顧

鳥居観音の三十年をふりかえってみますと、有縁の方々の深き御援助のある事を、しみじみと感じられまして、其内物故された方々だけでも（敬称略）水野梅暁・鈴木天山・三木宗策・中里清五郎・小川潮人・峰尾大休・筒井英俊・宇喜多智洞・内田男三郎・足利紫山・田中梅吉・孤峰智璨・下中弥三郎・菊池寛実・秋元順期・平岡仙之助・高階瓏仙・丹沢善利・山崎寅吉・村内では平沼邦彦外役員十一名等の多数にのぼります。況や現在活躍して居られて、鳥居観音に御尽力下されておる方々は非常な数でありまして、鳥居観音の今日あるは、全く此の有難き御信仰心の累積であります。斯に三十年の春秋をかえり見る時、有縁の各位には感謝の念を禁じ得ず又感無量です。

以上三十年の思い出の一部を略記しました。　合掌

# 印度附近の旅路

（其の六）　桐　江

## カジュラホのエロ彫刻群

十一月八日（四十三年）豪華なアンバー域を後にデリーに戻り、翌九日は飛行機でカジュラホの有名なヒンズー教のエロ彫刻でうずまっている寺院を見物の予定になっておりましたが雨のため飛行場が使用出来ないとのことで中止となりました。私は以前ヒンズー教の聖地ベナレスでリンガ（男根）を本尊としている、このような寺院を見たことがありますが、いやらしい感は少なく、また信者は男女融合の歓喜こそ神と合一するものであり、世界創造を現わすものとして、日本の歓喜天と同じく、真面目に、そして熱烈な信仰の対象としております。印度の家庭には子供が十人以上もいるのが多く、貧苦と食糧難の原因をなすものとして、政府は産児制限の実行に努力しておりますが、信者は「子供は、ヒンズーの神のおさずかりものであるから」となかなか耳をかさないので閉口しておるとのことです。

印度が数十の人種、言語の違った民族を団結して世界の大国を形成しているのはヒンズー教のお蔭ですがその反面、四階級制度が厳として実行されているため貧民や奴隷が非常に多く、また人口よりも多いといわれている聖牛が町を我が物顔にのさばっており、そのため産業や文化が進まないという宗教によるマイナスの面も相当見受けられる不思議な国です。

時々チャドル姿の沢山の婦人がレンガやセメント袋等を頭に乗せて運搬しているのを見受けますが、是は人口問題解決の一面を現わしているといえましょう。

## デリー附近

カジュラホが中止になったのでデリー附近を再見物したのですが、ここはさすがに、印度の中心地だけあって見るべきものが沢山あります。

博物館には、古代彫刻など非常に多いのですが、守衛が目を光らして吾々を警戒しておるのが不愉快でした。

これは最近日本人が彫刻を盗んだためとのことですが実に日本人の恥さらしをしたものです。

**ラスクミナヤン・テンプル**は総鏡張りの大きな室内に、美しい色彩の仏像が沢山安置してあるのが、上下左右の鏡に映り合って、なかなか壮観であったのも、ちょっと印象的でした。

この寺院つづきに仏教の寺があるのを見て嬉しかったのです。是を見ても仏教は、印度では殆んど亡びたが、ヒンズー教の中に生きておるといえましょう。

**ドグラガバット**という城壁に囲まれた宮殿に王様の石棺を中央に祭った回教式丸屋根の大寺院がありましたが、これに並んでいる同じ大きさの建物の中央に、愛犬の石棺がすえてあるのです。小説里見八犬伝とは違い、これには面白い実話があるそうですが、聞きもらしました。

**或る王様**が王城を南方に移転しようとして、これに反対した臣下を殺してまで築いたという大きな城を見物しました。ところが、この王城も水不足でなやみぬいて、僅か三ヵ年で、これを捨ててデリーに引揚げることになったので、デリーの市民は、これを喜び石の大きな歓迎のアーチを作りましたが、丁度王様がその下を通るとそのアーチがくずれて王様が下敷きになって死んだとのことですがこれは、殺された下臣の亡霊の仕業だとの伝説めいた物語があります。

## ガンダーラ地区

十一月十日、今日から三日間、万年雪で覆われたヒンズークシ山脈に囲まれている三千米の高原の**バーミヤン石窟**等の**ガンダーラ地区**の寒い処を旅行するので、私はありったけの着物を着け、ハンター用のカイロまで用意して、早朝飛行機で、砂漠の多い西パキスタンの上空を通り越して、アフガニスタンの首都カブール飛行場に着き、此処で飛行機を乗り換えて、パキスタンの北辺**ペシャワール**に逆行しました。

**インダス河**は、西パキスタンを貫流している大河で印度の国名も、この河の名をとったものです。その上流カシミール高原が、印度に取られ、ダムでも作られると砂漠の多いパキスタンは大打撃を受けることから、今尚カシミール地区の争奪戦をやっております。そのため印度から直接パキスタンの入国は許可されず、やむなくパキスタンの上空を通り越したのです。

## ペシャワール

**ペシャワール**の市内では、いま大学生と軍隊が市街戦たけなわで危険だとのことで、町見物は許されませんでした。

この大学生は日本のゲバ棒をまねしているのだとの事で、日本のゲバ棒も世界的とはおどろきました。

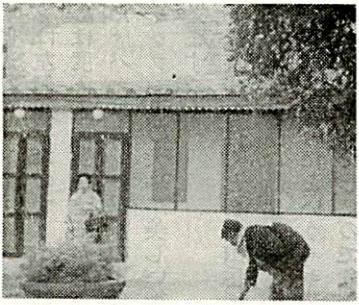
此の地方はギリシャの統治時代のガンダーラ仏教の名高い地区なので遺跡が非常に多く、また博物館にはその出土品や紀元前六世紀頃の文字等珍らしいものが多くあります。町の家並みや、バザール、露天商等、皆他では味わえぬ北国辺郷の情緒がありました。

ペシャワールの婦人

土人はモンゴルやチベット系で日本人に似ており、親しみをもてますが、私共一行のうち、婦人の和服姿の者が珍らしいと見えて、妙な服装の土人にとりかこまれて、見物に行った吾々があべこべに見世物になってしまいました。

しかし警官らしき人がよく警護してくれました。

婦人はチャドルで全く顔をかくして居るのが多く又婦人の写真を撮ることは厳禁されています。

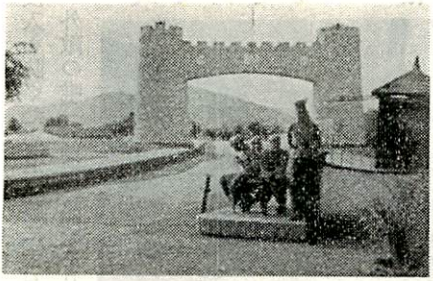


ペシャワールの面白いホテル

ペシャワールのホテルは道路から直接室内に入るという物騒な上に、寝室も浴室もだだっ広く壁ぎわのいろりには大きな薪が投げ込まれているなど北国にふさわしい古色蒼然たるもので、今にもどこかから魔法使いが現われそうな幻覚を味わうことが出来ました。

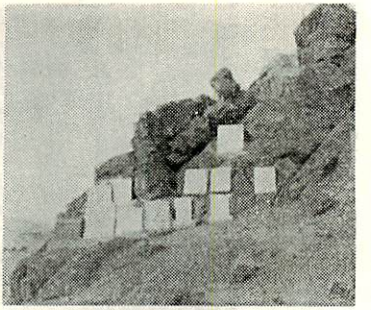
## カイバル峠

吾々一行は自動車をつらねてカイバル峠にさしかかると関所があり、兵隊が数名関門の中央にガンバッております。



カイバル峠入口の関所

この辺の自動車には皆一面に極彩色の絵が競うてかいてあるのも珍らしく地方色ゆたかでした。



国境近くの岩山に各国の軍隊等が通ったと書いてある

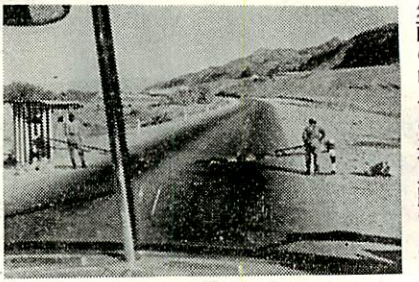
カイバル峠はインド方面に行く唯一のシルクロードで、アレキサンダー、ジンギスカン、マルコポーロ、玄奘法師その他皆この峠を越したもので、道端の岩壁には大きな大理石の永い歴史をうかがう記念額が沢山はめ込んであるのも、ことが出来ます。

この辺はヒンズークシや大雪山山脈に連った樹木の少ない峨峨たる山脈地帯でありますが、この山中に、パキスタンの人口の二割に当る八百万の遊牧の民がおり、また嶮岨な国境を越えて密貿易をして生活している人も多いとのことです。

今この山岳民族はパキスタンから独立しようとしているとのことですが、その家屋は外敵を防ぐため城のような厳重なものです。また山の峰々には沢山の砦や望楼が見えたり、敵の侵入を防ぐため道路脇に大石がたくさんおいてある等、外敵の唯一の進入路であり、防御地点であります。

峠を降った国境で両国の関所が百米位はなれてあり、手続きも中々面倒で二時間も待たされ、そのためパキスタンに入る時には日も西にかたむいてしまいました。

自動車はパキスタンは右側通行でアフガニスタンは左側通行なので、始めは度々正面衝突するかとハッと思うことがありました。パキスタンの平原の道は立派で両側には遊牧の民やジプシーの天幕が美しい街路樹の間からチラホラ見えます。



アフガニスタン国境の関所

二時間も行くとまた山岳地帯となり首都カブール迄二千米も危険な断崖を登るのですが幸い途中から日本に留学していたというパキスタンの人が色々と面白い話をしてくれましたので危険な谷間も楽しく暗夜を登り登って夜おそくカブールに着きました。（以下次号）

# 西遊記（其の十一）

岡部千三

## 虎退治

悟空がふりあげた如意棒の一打ちで、さしもの猛虎ものびてしまったので、法師は悟空の怪力に驚いて、「なる程、お前の力は大したものだよ。しかし仏様に仕(つか)える者は生者の命を大切にせねばならぬと、教えていらっしゃる。たとえ、虎でも、生きものだ。ころすなどとはもってのほかだ。これからは、そんな惨酷なことをしてはなりませんよ」そこで悟空は、

「はい、わかりました。気をつけます」というそばからすぐ虎の皮をはぎとって、袴にして腰に巻きつけて

「いかがです……似合いますか」

「袴だけではおかしい。わたしの着物をあげよう」

と法師は、一枚の上着をやり、今までの、ぼろぼろの着物と着かえさせた。悟空は胸をそらせて、小踊りし乍ら大はしゃぎして、いばっているので、法師は、

「そうだとも、立派になった、なったが、是れからは見かけだけでなく、お前の心も御仏の心のようになってもらいましょう」とさんざんとさとされたので、悟空「わかりました。それでは、お師匠さま、さあ、いそいでまいりましょう。これから先は、どんな事が起こっても、この虎のようにやっつけてしまいますから、私に任せて、御安心して下さい」と、悟空は、法師さまの先に立って、大手をふって歩いて行った。

法師と悟空は、心も足も、休みなく、「天じく」へいそいでいた。そして、毎日野や山を歩きつづけているうちに、いつか寒い寒い冬

が訪づれて、ピューッと、つめたい風が、うなって空を吹きぬけた。
「お師匠様、寒いですね。こんな時には、ひとあばれすると、暖かくなるのですが、何も出ないので、こまってしまいますよ」と悟空は、あくびばかりしながらいった。

## 悟空に殺害された六人の山賊

法師は、「いやいや何も出ないほうがよいのだ、あばれたり、人をきずつけたりしてはいけないよ」
法師が悟空をたしなめている前へ……ぬっと、三人のわる者が突然現われたのである。そして後にも三人出てきた。合せて六人の山賊どもである。
「ははあ、出たな、これはおもしろいぞ」と悟空は、よろこんでいる。
「こらっ、旅の者、馬をわたせ、荷物ものこらずおいていけ」と
山賊の一人が、威たけだかになって、目をむいてどなり、又ほかの五人も、手にもった武器を、見せびらかしながら、すごみをみせ、
「持っているものを皆おいていけ、おいていかぬといたい目にあわせるぞ」と、くちぐちにどなっている。
「馬鹿な事をいうな。旅をするには、馬がなくてはこまる。荷物も無駄なものは一つもない。一つだって、おいてたまるものか」
悟空は、如意棒をとりだした。
「山賊ども、お前達こそ、旅の者からうばいとった品物が沢山あるだろう。それを全部こちらへ出せ」と、あべこべに、山賊をおどかした。
「おやおや、この猿め、おかしなことをいう馬鹿なやつだ。折角とったものが、こんなやつに、やれるかい」
と真赤になってどなり返した。
そこで山賊どもは悟空めがけて、いちどにどっと、切りつけてきた。
ところが、悟空は平気なもので、山賊どもの刀や、鉄棒は、かちんかちんと、音がするばかりで、悟空の体から、はね返ってしまった。
「わっ、驚いたね、この頭、たいした石頭だ」
「逃げろ、逃げろ」とひとかたまりになって、逃げ出そうとするのを、
「おっと、逃がしてなるものか」と、悟空はおいかけて、手から出した、如意棒を、手ごろの大きさにして、一ふり二ふりと、ちょうど六かい振りまわしただけで、たちまち、六人の山賊を皆打殺してしまった。

「よわい山賊だ、どうです、お師匠さま、ごらんのように、わたしは強いのです。偉いものでしょう」と、大いばりしながら、山賊の着物や、武器、財布などを皆はぎとって、自分の懐中におし込んでしまった。

## 悟空の逃亡

驚いた法師は、

「これ、これ、そういうことをしてはいけない。悟空よく聞けよ、お前は、わたしの弟子になったのではないか、つまり、お前も出家(お坊さん)になったのだ。出家は、人を助けるのが役目です。いくら相手が悪者でも、人を殺すなどとは、とんでもないこと、それに、物をとって、自分の懐中にいれれば、山賊と同じではないか」

と、かなしそうに、いうと、

「でもお師匠さま、山賊は、悪いことをしたのです。悪いやつは、殺してしまった方がよいのです」と、

悟空はいたけだかになって反抗した。

そこで法師は、

「そうではない。わるい者でも、よく話をして、きれいな心にさせるのが、出家の勉めというものだ。仏様の御教えには、生きものを殺してはいけないとある。ああお前は。とんでもないことをしてしまったよ。おそろしいことだよ」と

法師は非常に、嘆き、悲しむと、悟空は、

「たとえ、仏様のおしえでも、わたしはそんな事は、だい嫌いです。悪いやつは殺した方がよいですよ」とぷんぷんに怒って、頬をふくらませた。

「お師匠様は、全く、無理ばかりおっしゃる。あなたのような解らずやの御供はもうごめんこうむる、はい。さようなら」と……怒りくるった悟空は、

くるりとむこうをむくと、呪文をとなえて、金斗雲をよんで、これにとびのり、一目さんに、どこともなく、とんで行ってしまった。

「悟空は困ったものだ、心は正直でよいものだが、物の道理が少しもわからない。仏心もない……」

## 観音様の化身から授かった頭巾と衣

法師はためいきをついた。そこへ、突然一人のおばあさんが、やってきて、法師に声をかけて、

「あなたは、何を悲しんでおいでですか」

法師、

「実は私の弟子が、人を殺し、物をうばったりして、乱暴をしたので、しかりつけた処、弟子は怒って、ど

こかへ行ってしまったので、悲しんでいる所です」
　すると、お婆さんは、首をふって、静かにいうのであった。
「御心配なさいますな、そのお弟子なら、すぐに戻るでしょう。そしたら、この二つを使って、少しこらしめてやりなさるがよろしい」
　お婆さんは、頭巾と衣を出して、法師にわたした。
「衣を着せ、頭巾をかぶらせて、呪文をとなえてごらんなさい。もう、おしえにそむくようなことは、しないでしょう。我儘者を罰するには良い品です。ためしてごらんなさい」
　こういったかとみるまに、そのおばあさんは、たちまち金色の光と変って、音もなく、サーッと空高く、舞い上り、何処ともわからぬ遠い所へ消え去ってしまいました。このおばあさんこそ、三蔵法師を蔭ながらお守護(まもり)して下さっておられる観音さまの化身だったのであります。
　法師は、あわてて、いまおばあさんの飛んで行った空の彼方を一心に伏し拝んだ。と、そこへ、なにも知らずに悟空が、戻ってきて、
「ただいま、ちょっと東海竜王のところまで行ってきました。竜王が、お師匠さまの所へ戻れといいましたので、まいもどって来たのです」と、ケロリとしている。法師は、観音さまからいただいた衣と頭巾を、さっそく手にして、
「これ、悟空！　これをご覧、お前にうってつけのものだ、さあ、着てごらん」と、有無をいわさずに衣を着せ、頭巾を冠せた。そして、おもむろに、呪文をとなえはじめると、たちまち悟空は、わめきだした。
「うわーッ！……いたい！　いたい！　頭が割れそうだ、助けてくれ……うわーッ！　いたい、いたい」
と、悟空は頭をかかえ、苦しみのあまり立ってはいられなくなって、ごろごろと、そこらじゅうを、ころげまわって、息もたえだえに
「お師匠さま……どうぞ、お助け下さい。早く呪文をといて下さい。何故、こんなめに合わせるのです？　お師匠さまは、ひどいお方だ！　どうして、こんないたずらをなさるのですか、もう止めて下さい、助けて下さい。何でもいうことを聞きますから助けて下さい。早く呪文をといて下さい……いたいよう！いたいよう！」
「悟空よ。その衣と頭巾を、なんと思う……？　おそれおおくも、観音さまが、お前の我儘をお直し下さるために、わざわざおつかわし下さったものなのだ」
（以下次号）

# 救世大観音建立

## 人間の本能

人間は高いとか、偉大なものに、威圧と、あこがれを持つ本能があります。

私は数年前、中近東附近の古跡を巡拝して廻りましたが、その雄大さ、豪華さに、全く心を奪われました。

その一例はアフガニスタン北辺の大雪山山脈にかこまれた三千米近い高原に、有名な**バーミヤンの石窟群**の遺跡があり、高さ五十三米の大石仏は回教徒に破壊された跡はあるが、堂々たる彫刻で威圧され、思わず合掌礼拝致しました。その大仏の頭上に登ると、万年雪と氷河に覆われた大雪山や、ヒンズークシ山脈などの雄大な景観は筆舌に尽し難く、ヒンズー教が神の霊地として恐れ信仰しているのも、最もだと思いました。

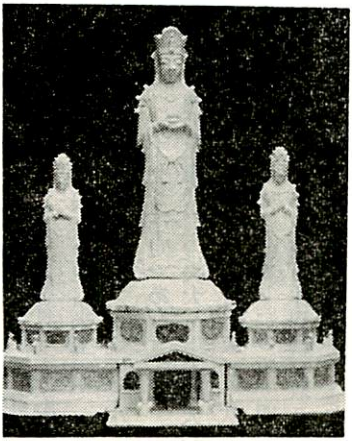
ビルマ人は収入のほとんどを**パコダ**にはりつける金箔を買って奉納する事を、一生の願望として居りまして死が近づくと、はるかに聳えたつ金色にかがやくパコダを礼拝しながら息を引きとるのを、無上の幸とし、有難いことと確く信じております。ビルマ人ならずともあの崇高なパコダには心引きつけられます。

その他、沢山の特色ある建築には威圧されましたが、これは人間のもつ本能ともいえましょう。

## 救世大観音建立の悲願

私はこの旅行によって受けたいろいろの刺激から、余生を大観音建立に捧げたいとの悲願をたてました。

もう一つの理由は、日本は敗戦のために、思想は混乱し物質文明の虜となって、祖先が築き上げたよい伝統と信仰心は失われつつある現状に鑑み、高所より大衆をみそなわす、大観音の偉大なる妙智力により、衆生を済度しこれを幸福に導き且つ日本の平和を守って頂き度い。



救世大観音の模型

そして、大衆は自然とこの山頂の救世大観音に引かれて風光明媚な白雲山の景色

を探勝しつつ知らず知らずのうちに信仰心が呼び起こされるのに役立てば有難いことと存じます。

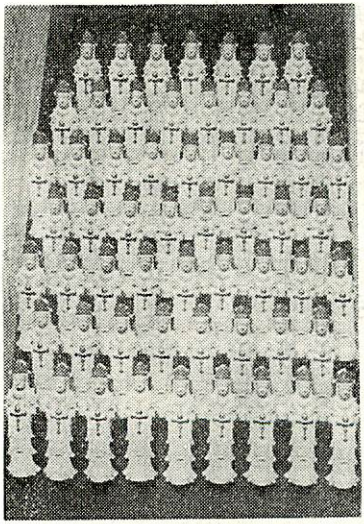
旅行後想をねること数年で大体まとまりましたので、大栄不動産の今津技師に設計を依頼し、昨年の春から、三信工業の服部技師により着工致しました。

先ず江古田のアトリエで六分の一（四米）の模型を作り、三信工業本社敷地内の大きなアトリエでその原型を六倍（中央二十三米、両側立二十米）に引延すため三米前後ずつ区切って粘土つけをするのですが、これを遠くから眺めることが出来ないので、名栗の白雲山頂に積み上げると、どんな形になるか心もとない作業でしたが、東京で作ったメス型を現地で積み上げてセメントをつめ、外がわを取りはずしたのを見ましたら、何とか見られるものになりそうで、ほっとしております。堂宇の基段は巾十米、長サ三十米、高サ十米（六十坪）で、その屋上に大観音を乗せたのですが、これは建築上最も苦心を要した処です。

## 工事経過

前号でご報告申し上げた通り、上棟式は曹洞宗管長岩本猊下お導師のもとに、七百余名の信者により盛大に挙行する事が出来ましたが、**大観音**は、梅雨のため修正や吹きつけが遅れたので、まだ足場を取り除くことは出来ませんが、壁面の観音三十三応身のレリーフ、柱の根元の回転獅子その他出来上っておりますし、足場が除ければ大屋根も取りつけられ、外部の補装は十一月末には完了する予定であります。

また、**内部工事**は、中央大ドームの天井に法輪と梵字、及び梁のレリーフ、観音眷族（けんぞく）二十八部衆等のレリーフの取りつけも完了しましたので、明年六月には内部塗装が完了し、また壱万体観音を取りつける釘も壁面に打ち込みが出来上る予定です。また内部に奉安する吉祥天・不動明王はすでに謹刻を終り、目下阿弥陀如来の彫刻に精進中であります。尚これらが出来次第各号で写真で御報告申し上げます。



内部壁面の壱万体観音の一部

# 壱万体観音奉納者芳名

白雲山中、四百八十余米の最も景勝の地に、建立中の救世大観音の体内や堂宇の壁面に、壱万体観音を奉安して、永代供養を申し上ぐる悲願を立てました処、有縁の方々の御賛助により七月末日迄に次記の通りの御奉納にあづかり事務局一同感激しております。

定めし御先祖様は、この堂宇内に奉安する観音様ゆかりの沢山の仏・菩薩に守られて極楽に安住せらるる事と信じます。尚又今後共御知友の方々へこの吉祥縁をお結び下さるよう御勧誘の程御願申上ます。

甚だ恐縮ですが、敬称を省略させて頂きます。

○印はA観音像の御奉納者です。

合掌

| 住所 | 芳名 | 住所 | 芳名 | 住所 | 芳名 | 住所 | 芳名 | 住所 | 芳名 | 住所 | 芳名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ○藤沢市 | 作田　徹也 | ○渋谷区 | 和崎　啓三 | ○豊島区 | 西島　達夫 | ○名栗 | 平沼　幸一 | 川越市 | 小原　春雄 | 青梅市 | 雨宮　元義 |
| ○大田区 | 田辺　徹 | ○千代田 | 水島　泰子 | ○飯能市 | 矢島　専三 | 〃 | 町田真之亮 | 〃 | 加藤　平三 | 〃 | 荒井　安吉 |
| ○三鷹市 | 影森　敦文 | ○板橋区 | 中谷　泰一 | 飯能市 | 町田　純一 | 〃 | 町田　芳三 | 〃 | 長田　謙 | 〃 | 荒井　宣昭 |
| ○品川区 | 栃打多喜郎 | ○熊谷市 | 曽根　信次 | 〃 | 遠藤　幸子 | 〃 | 平沼金八郎 | 〃 | 浜野　清吉 | 目黒区 | 若林　とく |
| ○渋谷区 | 中島　正清 | 北多摩 | 山本　聡憲 | 〃 | 清水　弘行 | ○浦和市 | 磯　辨蔵 | 〃 | 大友　清司 | 与野市 | 茂木　落喜 |
| ○杉並区 | 横井　仁三 | 春日部 | 岡村　満 | 狭山市 | 遠藤　操 | 名栗 | 滝田　弁吉 | ○与野市 | 井上　正雄 | 〃 | 韮塚　彦雄 |
| ○世田谷 | 鬼頭美代志 | 練馬区 | 大野　由蔵 | 〃 | 斉藤　勝美 | 〃 | 岡部　すい | 〃 | 葩島　栄作 | 上尾市 | 松崎　泰次 |
| ○千代田 | 松倉あさ江 | ○狭山市 | 立川　良男 | 所沢市 | 松葉　利夫 | 〃 | 浅見福太郎 | 〃 | 小池福太郎 | 〃 | 多田　昶夫 |
| ○新宿区 | 下中　直也 | ○千代田 | 友松　圓諦 | 飯能市 | 栗原慶治郎 | 〃 | 岡部　義治 | 〃 | 井上　秀夫 | 浦和市 | 阿部　一成 |
| ○入間郡 | 近川　範昭 | ○文京区 | 丸　英 | 〃 | 鈴木孝太郎 | 〃 | 平沼庄三郎 | 〃 | 樋口　誠司 | 〃 | 佐藤　驍 |
| 〃 | 関　昭一 | 目黒区 | 佐藤　征捷 | ○入間市 | 西沢　泰三 | 世田谷 | 若林　茂男 | 〃 | 田島　睦之 | 大宮市 | 飯塚　正夫 |
| ○本庄市 | 根岸　徹雄 | 〃 | 若林正一郎 | ○狭山市 | 矢島好太郎 | 鹿沼市 | 神山　勝造 | 〃 | 安田　邦彦 | 〃 | 小林　敏男 |
| ○川越市 | 清水　浩 | ○松戸市 | 相台宗次郎 | 川越市 | 野房初太郎 | ○川越市 | 森田角三郎 | ○中野区 | 石川　芳雄 | 岡部町 | 茂木　肇 |
| 浦和市 | 斉藤道太郎 | 鎌倉市 | 瀬高　徳栄 | 世田谷 | 大場　善勝 | 〃 | 小川福治郎 | 豊島区 | 中山　忠男 | 北区 | 神村　五郎 |

大宮市　浪江　和夫
〃　川辺　武夫
上尾市　黒須　伸司
岩手　佐藤　均
福岡町　村田　征二
鴻巣市　常見　豊
〃　島田　龍郎
中野区　小笠原正視
杉並区　成田　明子
熊谷市　福田　敏彦
与野市　佐竹　幸夫
宮城　新井　通男
宮崎町　小島喜代子
深谷市　丸山　久蔵
上尾市　柴崎　信之
〃　吉田　富広
行田市　柳　正夫
庄和町　黒沢　洋一
深谷市　比留間豊夫
浦和市　岡田　功
〃　松本　忠
北本町　桶川町
岩槻市　川口市
鳩ヶ谷　鴻巣市
戸田市　大宮市
細井　幹夫
大宮市　浦和市
原口新三郎
吹上町　根岸　栄一

草加市　加藤　明
川口市　青木　宏夫
大宮市　高瀬　紀
行田市　中島　寛亮
横浜市　山本　豊
杉並区　小笠原正視
羽生市　岡田　孝徳
北本町　佐藤　政之
熊谷市　渋谷　修
行田市　長谷川栄二
熊谷市　渋井　嘉次
北本町　宮野　孝
浦和市　黒須　達児
大宮市　沢田　実
〃　花木　孝
浦和市　川嶋　久幸
鴻巣市　千葉　英明
熊谷市　稲葉　寿勝
加須市　岡部　政雄
与野市　井田四良夫
熊谷市　本木　征治
桶川町　松本　明
川口市　吉村　秀晴
鴻巣市　矢内健治郎
大宮市　中村　英夫
浦和市

飯能市
〃　大田区
三鷹市　寺島眞二郎
岩槻市　吉田　兵蔵
上尾市　兵頭　睦雄
〃　柴崎　昌夫
飯能市　加藤善兵衛
川越市　野房はな江
日高町　塚越千代作
春日部　関根　宇吉
庄和町　渡辺　友次
川口市　原　正命
伊東市　竹田　佐一
名古屋　白木　康雄
浦和市　萩原　重夫
与野市　綿貫　昌弘
〃　森　幹一
〃　正木　三郎
〃　新村　勲
久喜町　黒須新太郎
名栗　岡部　久治
名栗　石井　勲
中野区　大久保よしえ
狭山市　青木　トシ

平松　正吉
加藤　育三
下中　邦彦
寺島眞二郎
吉田　兵蔵
柴崎　昌夫
加藤善兵衛
野房はな江
塚越千代作
関根　宇吉
渡辺　友次
竹田　佐一
白木　康雄
萩原　重夫
綿貫　昌弘
森　幹一
正木　三郎
新村　勲
黒須新太郎
岡部　久治
石井　勲
大久保よしえ
青木　トシ

与野市
川越市　永田　武彦
飯能市　島村　源治
〃　町田　善二
〃　石川　健吉
名栗　町田徳太郎
〃　町田軍次郎
熊谷市　馬場　肇
府中市　坂田　清衛
宮城県　加藤　鎮雄
飯能市　岡部　みや
〃　枝久保三男
〃　小高　成一
〃　小島　一郎
東松山　渡辺　善市
名栗　川村　好二
川口市　枝久保松三
〃　須賀　啓治
〃　富田新太郎
〃　保谷忠太郎
〃　松田銀次郎
〃　金子　兼吉
〃　吉沢　啓介
所沢市　戸ヶ崎　実
与野市　八田　弘人

永田　武彦
島村　源治
町田　善二
石川　健吉
町田徳太郎
町田軍次郎
馬場　肇
坂田　清衛
加藤　鎮雄
岡部　みや
枝久保三男
本多　和昭
小高　成一
小島　一郎
渡辺　善市
川村　好二
枝久保松三
須賀　啓治
富田新太郎
保谷忠太郎
松田銀次郎
金子　兼吉
吉沢　啓介
戸ヶ崎　実
八田　弘人

川口市
〃　名倉　新一
〃　新藤　勝衛
〃　並木　喜市
〃　並木　利夫
〃　加藤　好雄
〃　並木弥太郎
〃　林　恭輔
〃　矢作　正二
〃　伊沢　泰
〃　高柳市五郎
〃　白石　得爾
〃　秋元芳五郎
〃　椎橋　新助
〃　徳永　麓
〃　飯塚富次郎
〃　飯塚三次郎
〃　早船　行吉
〃　早船仁三郎
〃　木幡　酉蔵
〃　長島　佐平
〃　飯塚　孝司
浦和市　吉野　常吉
与野市　福島　完司
川口市　飯塚　直次
大塚仙太郎

川口市
〃　保永亀一郎
〃　宇田川次郎
〃　宇田川幸蔵
〃　田中　安三
〃　田中　昇
〃　舟津　静二
〃　中山　繁寿
〃　小林　武次
〃　鈴木吉之助
〃　小林　一郎
〃　鈴木　誠一
〃　中村　修
〃　山下　薫尾
〃　浅子　藤蔵
〃　矢作　仙松
〃　江原　勝治
〃　高津　勇義
狭山市　早川　久男
〃　大谷　喜三
目黒区　鳥飼　道生
〃　鳥飼　道生
狭山市　黒米　昭五
〃　田中　貞夫
〃　栗原　茂
〃　斉藤　ロク

| | | | |
|---|---|---|---|
| 八王子 | 阿部　末吉 | 青梅市 | 田中利一郎 |
| 三鷹市 | 渡辺　萬助 | 〃 | 小林　キヨ |
| 芦屋市 | 郡司　茂 | 〃 | 青木　穂平 |
| 練馬区 | 平沼杉之助 | 昭島市 | 奥隅　カツ |
| 豊玉北 | 外　二体 | 〃 | 山中　堅介 |
| | 平沼　敏子 | 〃 | 福田　巳一 |
| | 外　一体 | 〃 | 吉沢　ミナ |
| 京都市 | 上野　公子 | 狭山市 | 金子　信雄 |
| | 外　一体 | 狭山市 | 市川　長司 |
| 佐久市 | 櫛田　雪子 | 〃 | 栗原　光起 |
| 大田区 | 堀井　孝二 | 〃 | 斉藤　恒吉 |
| 狭山市 | 忍成　精一 | 日高町 | 大野要次郎 |
| 飯能市 | 小高　重雄 | 朝霞市 | 井上　久和 |
| 浦和市 | 島崎　貞雄 | 青梅市 | 荒井　勇 |
| 川越市 | 樋上　隆子 | 〃 | 小峯　久治 |
| 大宮市 | 安原芳太郎 | 横浜市 | 山崎　政雄 |
| | 外　一体 | 〃 | 外　一体 |
| 横浜市 | 田中武一郎 | 青梅市 | 橋本　寛一 |
| | | | 関口　喜八 |
| 飯能市 | 〃　外　一体 | 〃 | 中村　良次 |
| 横瀬村 | 石井　清作 | 〃 | 田中　信次 |
| 青梅市 | 町田富次郎 | 〃 | 橋本　清 |
| 〃 | 杉山　キヨ | 〃 | 中村　ヨシ |
| 〃 | 増毛　光一 | 〃 | 中村　五郎 |
| 〃 | 斉藤　満 | 〃 | 井上　友一 |
| 青梅市 | 荒井　兼吉 | 青梅市 | |
| 〃 | 岩浪　巌 | 〃 | |
| 〃 | 富田　秋夫 | 〃 | |
| 〃 | 荒井　多一 | 〃 | |
| 〃 | 中村　義三 | 〃 | |
| 〃 | 内野　八郎 | 〃 | |
| 〃 | 中村準一郎 | 〃 | |
| 〃 | 中村　正三 | 〃 | |
| 〃 | 武井　一郎 | 〃 | |
| 〃 | 榎本　達雄 | 〃 | |
| 〃 | 加藤　利夫 | 昭島市 | |
| 昭島市 | 乙幡常次郎 | 坂戸町 | |
| 坂戸町 | 木藤　公 | 大田区 | |
| 大田区 | 三宅　孝夫 | 〃 | |
| 〃 | 外　一体 | 練馬区 | |
| 練馬区 | 内藤ミツエ | 〃 | |
| 〃 | 眞田　カヨ | 新宿区 | |
| 新宿区 | 松島　良文 | 浦和市 | |
| 大宮市 | 山崎　文男 | 大宮市 | |
| 北　区 | 高木　菊蔵 | 浦和市 | |
| 浦和市 | 小峯　宗隆 | 練馬区 | |
| 横浜市 | 五十嵐　衡 | 〃 | |
| 〃 | 外　一体 | 川越市 | |
| 新宿区 | 三佐和貞夫 | 国立市 | |
| 大宮市 | 山脇　元助 | 川越市 | |
| 北　区 | 生島　秀雄 | 練馬区 | 小平市 |
| 〃 | 外　二体 | 所沢市 | 南方　晧 |
| 浦和市 | 土橋　英夫 | 〃 | 松本　貞信 |
| 〃 | 外　一体 | 世田谷 | 大西　清 |
| 板橋区 | 小川　静子 | 新宿区 | 小川　正平 |
| 練馬区 | 桧野　泰子 | 練馬区 | 田中　丈夫 |
| 杉並区 | 佐藤　篤子 | 浦和市 | 持木　豊 |
| 〃 | 山下　育男 | 〃 | 野崎　敏夫 |
| 横浜市 | 松成　貞子 | 横浜市 | 金井　武治 |
| 港　区 | 佐伯　タミ | 〃 | 松成　貞子 |
| 京都市 | 佐々浪正典 | 行田市 | 桜井　正夫 |
| 横浜市 | 田伏三之助 | 練馬区 | 山本　照夫 |
| 〃 | 外　三体 | 川越市 | 徳田　一郎 |
| 川越市 | 武藤　豊吉 | 練馬区 | 大野喜三郎 |
| 与野市 | 古田　利一 | 目黒区 | 若林　五郎 |
| 大和市 | 小川　義嘉 | 〃 | 若林　澄子 |
| 所沢市 | 長島千代作 | 〃 | 阿部　正雄 |
| 浦和市 | 内田　英夫 | 〃 | 渡辺　照義 |
| 蓮田町 | 斉藤光二郎 | 〃 | 野口　昇 |
| 浦和市 | 伊藤　雄二 | 品川区 | 堀江　良男 |
| 練馬区 | 新井　金蔵 | 東村山 | 神山　廉作 |
| 〃 | 鶴田　又男 | 中野区 | 浜崎　国男 |
| 川越市 | 天笠　保治 | 山形県 | 手塚　仁 |
| 国立市 | 紅林　禧佑 | 宇都宮 | 神山　義男 |
| 川越市 | 原島　茂 | 鹿沼市 | 小島　正雄 |
| 浦和市 | 新藤　義雄 | 板橋区 | 吉祥寺 |
| 板橋区 | 岡田　健児 | 〃 | 中野区 |
| 〃 | 伊藤安久太郎 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 田中万太郎 | 〃 | 〃 |
| 練馬区 | 佐藤　久男 | 〃 | 〃 |
| 板橋区 | 大野　さき | 〃 | 〃 |
| 北　区 | 木戸　かつ | 〃 | 〃 |
| 板橋区 | 山崎　定義 | 〃 | 〃 |
| 足立区 | 面　未吉 | 〃 | 〃 |
| 練馬区 | 森　幸之助 | 〃 | 〃 |
| 大宮市 | 福田　一雄 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 山下　直衛 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 相島　君子 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 相島　修 | 〃 | 〃 |
| 渋谷区 | 相島田鶴子 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 相島　鉄郎 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 尾崎　一郎 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 尾崎　壮治 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 尾崎英美子 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 木原　昭郎 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 木原　祥子 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 山崎　喬恒 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 武田　茂男 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 外　一体 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 出羽　敏雄 | 〃 | 〃 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 杉並区 | 相馬　信 | 大宮市 | 吉村　正雄 |
| 中野区 | 所　はつゑ | 川越市 | 比留間敏夫 |
| 新宿区 | 小倉　博 | 与野市 | 大久保隆治 |
| 中野区 | 武田規公子 | 北　区 | 奈良　好雄 |
| 〃 | 高橋　司郎 | 豊島区 | 木俣　美純 |
| 〃 | 竹越　梅子 | 渋谷区 | 木原　昭郎 |
| 〃 | 外　一体 | 川越市 | 榎本　斌 |
| 渋谷区 | 田沼多恵子 | 渋谷区 | 渡辺倭文栄 |
| 熊谷市 | 大沢　金次 | 所沢市 | 梅沢　忠久 |
| 鶴ヶ島 | 峰岸　武次 | 東村山 | 町田　清吉 |
| 浦和市 | 浅見　道雄 | 北　区 | 高木　菊蔵 |
| 大宮市 | 佐藤　敏子 | 浦和市 | 加藤　栄祐 |
| 浦和市 | 逸見　正夫 | 〃 | 新井　二郎 |
| 〃 | 平井国之助 | 〃 | 吉野　武明 |
| 武蔵野 | 西　や万 | 大宮市 | 寺西　逸雄 |
| 〃 | 外　一体 | 狭山市 | 水越　昇 |
| 世田谷 | 柏木　博 | 飯能市 | 加藤　貞三 |
| 杉並区 | 渡井　俊江 | 〃 | 清水礼次郎 |
| 板橋区 | 塚田　節子 | 青梅市 | 野口邦太郎 |
| 豊島区 | 石村幸一郎 | 川越市 | 水村　俊助 |
| 〃 | 外　一体 | 飯能市 | 水村　八郎 |
| 狭山市 | 俵木　武三 | 東松山 | 長嶋　振作 |
| 西多摩 | 渡辺　伸一 | 所沢市 | 坂田　作夫 |
| 板橋区 | 清水　正夫 | 川越市 | 渡辺彦一郎 |
| 浦和市 | 長谷川宗三 | 入間郡 | 浅野　一三 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 浦和市 | 大滝　信雄 | 大宮市 | 吉村　徳治 |
| 草加市 | 吉岡　徳治 | 行田市 | 馬橋正之助 |
| 入間郡 | 島野　芳彦 | 大宮市 | 赤木　力男 |
| 練馬区 | 植松　正行 | 浦和市 | 小河原勝次 |
| 足立区 | 堀口　錦治 | 中野区 | 船渡勝太郎 |
| 熊谷市 | 八木橋本次郎 | 浦和市 | 染川　隆二 |
| 吉祥寺 | 山田　稲子 | 〃 | 古谷　勉 |
| 市川市 | 増田喜八郎 | 渋谷区 | 喜代永政雄 |
| 新宿区 | 丸山　辰蔵 | 北九州 | 岩本　浪雄 |
| 品川区 | 高柳　敏子 | 〃 | 吉川　丞一 |
| 〃 | 外　一体 | 板橋区 | 斉藤正三郎 |
| 大田区 | 神原　三男 | 北九州 | 高橋　正男 |
| 中野区 | 夏秋　尚平 | 〃 | 徳永　清敏 |
| 杉並区 | 奥山　正夫 | 〃 | 原田　正行 |
| 北九州 | 藤村　敏朗 | 〃 | 小松和太郎 |
| 〃 | 西　一美 | 〃 | 豊田　吉郎 |
| 〃 | 土井　治之 | 〃 | 山本　春雄 |
| 〃 | 皆見　太 | 〃 | 大古場忠生 |
| 〃 | 川口　勝美 | 〃 | 吉田　幾雄 |
| 〃 | 山本　欣一 | 〃 | 小野百合貞 |
| 〃 | 泉田　孝三 | 鎌倉市 | 高田　貞文 |
| 福岡市 | 橋橋　保文 | 武蔵野 | 狩野　清 |
| 豊島区 | 田中　正三 | 所沢市 | 三上　知彦 |
| 中野区 | 増野陽太郎 | 千代田 | 大久保正枝 |
| 川口市 | 松下芳太郎 | 〃 | 外　二体 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 小池　静雄 | 杉並区 | 平沼新八郎 | 目黒区 |
| 馬橋正之助 | 世田谷 | 功力　藤雄 | 〃 |
| 赤木　力男 | 熊谷市 | 鯨井　文雄 | 〃 |
| 小河原勝次 | 蕨　市 | 西　恒夫 | 練馬区 |
| 船渡勝太郎 | 浦和市 | 浜崎　勇 | 荒川区 |
| 染川　隆二 | 杉並区 | 堀　宗一 | 板橋区 |
| 古谷　勉 | 大田区 | 二亦　正 | 飯能市 |
| 喜代永政雄 | 北九州 | 中村　正隆 | 〃 |
| 岩本　浪雄 | 中野区 | 古賀　浩 | 〃 |
| 吉川　丞一 | 北九州 | 松浦　清磨 | 板橋区 |
| 斉藤正三郎 | 〃 | 於保　隆彦 | 〃 |
| 高橋　正男 | 〃 | 中西　新 | 〃 |
| 徳永　清敏 | 〃 | 吉永　幹雄 | 〃 |
| 原田　正行 | 〃 | 岩本　健詞 | 千代田 |
| 小松和太郎 | 〃 | 白橋　恒彦 | 〃 |
| 豊田　吉郎 | 〃 | 花岡　恒夫 | 〃 |
| 山本　春雄 | 福岡県 | 福田　照男 | 〃 |
| 大古場忠生 | 北九州 | 高木　一隆 | 〃 |
| 吉田　幾雄 | 西宮市 | 伊藤　信 | 〃 |
| 小野百合貞 | 浦和市 | 宮崎竹次郎 | 〃 |
| 高田　貞文 | 杉並区 | 須賀文三郎 | 秩父市 |
| 狩野　清 | 〃 | 石田　宗国 | 行田市 |
| 三上　知彦 | 練馬区 | 大花　成彦 | 北本町 |
| 大久保正枝 | 新座町 | 吉田　国雄 | 与野市 |
| 外　二体 | 足立区 | 松井孝一郎 | 世田谷 |
| | | | 入間市 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 渡辺　義之 | 大宮市 | 大宮市 | 大宮市 |
| 今井　豊子 | 行田市 | 行田市 | 行田市 |
| 若林　とく | 桑田　紘行 | 神田　八東 | 遠山　辰雄 |
| 前田　安彦 | 川島源次郎 | 下世古雄作 | 下世古雄輔 |
| 下世古雄吉 | 下世古雄五 | 下世古雄吉 | 下世古美和 |
| 下世古三雄 | 鶴見　いな | 榎本　嚴 | 桜井　俊昭 |
| 榎本誠二郎 | 中島　政男 | 福島和一郎 | 福島　治男 |
| 黒沢　源七 | 世川鉄一郎 | 梅本　稿雄 | 浅野　国松 |

| | |
|---|---|
| 練馬区 | 清水喜久雄 |
| 西多摩 | 木村源兵衛 |
| 入間郡 | 土屋　哲一 |
| 大宮市 | 高橋　三雄 |
| 秩父郡 | 新井　荘司 |
| 浦和市 | 島田　光衛 |
| 北　区 | 大沼　満 |
| 新宿区 | 山本　豊吉 |
| 所沢市 | 打木　文 |
| 武蔵野 | 田中はまよ |
| 行田市 | 佐藤孝太郎 |
| 千代田 | 杉野　彪 |
| 〃 | 杉野　玲子 |
| 〃 | 橋詰　吉蔵 |
| 〃 | 杉野　展子 |
| 〃 | 川勝　基志 |
| 〃 | 川勝　悦子 |
| 〃 | 藤木　武 |
| 〃 | 藤木千恵子 |
| 坂戸町 | 若松　志津 |
| 鴻巣市 | 森　正木 |
| 川里村 | 滝沢　弘 |
| 川越市 | 福田増太郎 |
| 浦和市 | 中村　善行 |
| 練馬区 | 小林利一郎 |

| | |
|---|---|
| 練馬区 | 和田政五郎 |
| 東村山 | 鈴木　清澄 |
| 練馬区 | 内田好三郎 |
| 川口市 | 永井　輝彦 |
| 浦和市 | 清宮　栄治 |
| 練馬区 | 白井しげ子 |
| 久留米 | 木島　金助 |
| 川口市 | 永瀬　梅男 |
| 千代田 | 佐藤喜美子 |
| 〃 | 佐藤　正之 |
| 〃 | 神山　眞一 |
| 〃 | 神山　韶子 |
| 〃 | 八雲商事㈱ |
| 〃 | 八雲商事㈱ |
| 与野市 | 首藤　八郎 |
| 練馬区 | 宮永　寛三 |
| 〃 | 藤平　義幸 |
| 港　区 | 加藤　真一 |
| 〃 | 外　一体 |
| 品川区 | 森　勝吉 |
| 狭山市 | 内野　整一 |
| 〃 | 田中　一雄 |
| 〃 | 指田　庫二 |
| 〃 | 広沢　こう |
| 浦和市 | 田島　賜子 |

| | |
|---|---|
| 浦和市 | 野口　育子 |
| 〃 | 外　二体 |
| 市川市 | 原　隆 |
| 保谷市 | 戸塚　卓男 |
| 所沢市 | 斉藤　浩二 |
| 千代田 | 山野辺行也 |
| 大宮市 | 網野　久一 |
| 浦和市 | 岡田　亮治 |
| 大宮市 | 内田平三郎 |
| 大宮市 | 二宮　晟 |
| 江東区 | 山ノ内英郎 |
| 〃 | 宮本　四郎 |
| 桶川町 | 市ノ川竹次 |
| 新宿区 | 杉山　慎 |
| 杉並区 | 櫻田　久 |
| 豊島区 | 桐木　克哉 |
| 港　区 | 森　勝吉 |
| 横浜市 | 玉田勝太郎 |
| 市川市 | 小川　正三 |
| 新座町 | 西村　博吉 |
| 市川市 | 小川　孝重 |
| 船橋市 | 富田　佶 |
| 調布市 | 西川　春彦 |
| 武蔵野 | 谷本　慶隆 |
| 台東区 | 柳　ぬい |

| | |
|---|---|
| 渋谷区 | 山口　奈可 |
| 藤沢市 | 笛木　重子 |
| 新宿区 | 桐木　光三 |
| 蓮田町 | 石川　恒久 |
| 浦和市 | 内田　増明 |
| 川越市 | 山口　利信 |
| 松戸市 | 相台庄太郎 |
| 目黒区 | 若林　とく |
| 浦和市 | 内田　増明 |
| 北葛飾 | 高野　繁 |
| 蓮田町 | 石川　恒久 |
| 練馬区 | 片桐　邦知 |
| 行田市 | 馬橋正之助 |
| 台東区 | 細川　秀雄 |
| 武蔵野 | 島崎　静馬 |
| 狭山市 | 室岡　和一 |
| 世田谷 | 松本　福男 |
| 鹿沼市 | 若林一二三 |
| 目黒区 | 若林　五郎 |
| 吉見村 | 大野陽之助 |
| 練馬区 | 五十島敏子 |
| 杉並区 | 森田紗千子 |
| 北足立 | 須藤　幸雄 |
| 青森県 | 松原　福司 |
| 小金井 | 鈴木半四郎 |

| | |
|---|---|
| 小金井 | 鈴木　アサ |
| 練馬区 | 内藤ミツエ |
| 目黒区 | 広住　温 |
| 〃 | 若林　澄子 |
| 〃 | 若林正一郎 |
| 世田谷 | 若林　義男 |
| 豊島区 | 中山　忠男 |
| 〃 | 西島　達夫 |
| 鹿沼市 | 神山　勝造 |
| 北　区 | 大川　鐵雄 |
| | B　十体 |
| 北　区 | 鈴木　正治 |
| 草加市 | 中屋　定義 |
| 川越市 | 鈴木弥重郎 |
| 浦和市 | 増田萬亀雄 |
| 狭山市 | 清水　逸平 |
| 川崎市 | 鈴木　貞次 |
| 名　栗 | 田地　章寿 |
| 飯能市 | 岡部　喜由 |
| 〃 | 椙田　るみ |
| 〃 | 山崎　省次 |
| 名　栗 | 浅見逞次郎 |
| 〃 | 岡部　恒治 |
| 〃 | 森下戒寿朗 |
| 〃 | 原田亀三郎 |

| | |
|---|---|
| 名　栗 | 山岸　市治 |
| 熱海市 | 松井　文子 |
| | 松井石根（下）<br>未亡人（閣） |
| | 伊丹　忍礼 |
| 熱海市 | （興亜観音堂守） |
| 大宮市 | 秦　明友 |
| 〃 | 内倉健三郎 |
| 〃 | 蓮見　俊水 |
| 〃 | 中村　栄治 |
| 〃 | 瀬田　兼治 |
| 名　栗 | 森本　芳明 |
| 狭山市 | 大野　信貞 |
| 清水市 | 松田　江畔 |
| 川崎市 | 吉田　一男 |
| 横浜市 | 塩見　孝 |
| 清水市 | 杉山　茂夫 |
| 文京区 | 秋本平十郎 |
| 名　栗 | 石井　松次 |
| 〃 | 新井　静江 |
| 大和町 | 清水　健生 |
| 国立市 | 佐武　正平 |
| 名　栗 | 浅見　倭明 |
| 青梅市 | 西村安太郎 |
| 大宮市 | 都築　次郎 |
| 〃 | 渋谷　一男 |

大宮市　斉藤いね子
〃　町田　一男
浦和市　千葉　寿
岩槻市　高瀬　久夫
熊谷市　大谷三四郎
金沢市　浅倉　晴弥
川島村　斉藤　賢吉
坂戸町　黒瀬　滝治
〃　野崎　守
青梅市　鈴木　峰吉
〃　青木益太郎
豊島区　本橋　石松
飯能市　渋谷　文造
入間市　関根　章
〃　宮寺　武
〃　西崎　徳
〃　小北　隆治
狭山市　小沢　徳平
飯能市　渋谷　弘
〃　小川　健造
日高町　島崎　一男
三鷹市　増渕　たみ
大宮市　佐藤　文一
与野市　横木　信幸
大宮市　田島　和

高崎市　上原　豊
〃　塩島　賢
与野市　小俣　茂
文京区　萩原　金蔵
横浜市　岩崎　丈夫
港区　京極　友助
静岡県　大嶽　孝夫
〃　外　三体
〃　大嶽　静江
〃　外　一体
杉並区　柴田　衛
清水市　島田規矩雄
沼津市　大嶽　俊郎
世田谷　須山　正秀
目黒区　土居　謙
品川区　玉井　謙三
〃　外　一体
狭山市　飯島　美穂
渋谷区　小林謙次郎
足立区　江川　紋次
大宮市　染谷　親夫
浦和市　熊木　伯行
〃　中川　清
世田谷　小佐野賢治
A　三十体

世田谷　B　五十体
佐野　友二
A　三十体
B　五十体
港区　菊池　仁
A　三十体
B　五十体
蛇の目ミシン工業株式会社
社長　前田増三
B　壱百体
中央区
青梅市　島田　卓弥
A　五体
B　五体
練馬区　大島英砂雄
〃　外　一体
鎌倉市　小糸源六郎
A　七体
B　四十二体
港区　加藤　真一
B　十体
渋谷区　石坂　泰三
A　十体
松戸市　相台宗次郎
A　十体
渋谷区　渡辺　綱雄

練馬区
A　六体
B　二十体
世田谷
平沼杉之助
A　六体
B　五体
山崎まりえ
B　三十体
吉祥寺
内田さつき
B　三十体
大宮市
平沼　康彦
B　五十体
三鷹市　広谷　穂高
横浜市　佐藤　正行
中野区　高山　基次
墨田区　滝沢　勝博
尼崎市　山田　利夫
大阪市　藤田　弘蔵
寝屋川　泉　昭栄
横浜市　鎌倉　建三
川越市　佐藤　茂助
〃　山本　俊雄
千代田　小川　悦代
板橋区　山口　友作
新宿区　榊原　惣一
熊谷市　金子　光助

浦和市
横浜市
〃
川越市
目黒区
横浜市
羽曳野
浦和市
〃
〃
杉戸町
川越市
立川市
足立区
松戸市
練馬区
世田谷
横浜市
武蔵野
世田谷
杉並区
戸田市
川西市
川口市
横浜市

関根　正義
本島　茂
丸山　健二
武川　文男
柳沢　金公
内村　葆
福田　豊
今井善次郎
萩原　謙二
石塚善次郎
土田　能明
間仁田和助
御沢　正治
池田　一郎
島崎　浩典
島村　達行
本間登喜男
林原　宏
山口　勝巳
志賀　俊彦
栗原　忠吾
田中　三吉
日高　融
宮崎　年正
佐藤　弘

横浜市
藤沢市
幸手町
大阪市
〃
〃
千代田
〃
板橋区
岐阜市
浦和市
調布市
杉並区
武蔵野
松戸市
新宿区
行田市

小島　義一
鈴木　則雄
熊倉　正夫
幾田　忠
中村　武
朝岡　正雄
西沢恭太郎
中村栄二郎
佐藤　英雄
田口　義雄
東　光爾
園田　実
荻山　勝
鈴木　安二
小田　義久
原口　賢次

合計（第二集）
一、三七五体
内A　三一〇体
内B　一、〇六五体
累計（第一集）（第二集）
一、八七五体
内A　四三四体
内B　一、四四一体
（以下次号）

切……り……と……り……線

# 壱万体観音奉納申し込み用紙

| | | | |
|---|---|---|---|
| A B 区分 | 供養霊位（何々家祖先代々又は御戒名） | 御住所 | 御芳名 |
| | | | |
| | | | |

号数

取扱者

建立中の救世大観音の体内及堂宇内に、壱万体の観音像奉安をおねがい申し上げましたところ、広く有縁の方々から二千体余のお申し込みに預りました。定めしこれらの祖霊は観音の偉大な功徳のお力に守られ極楽の喜びをお受けなさることと存じます。何卒この浄業が達成するようご勧進申し上げます。

永代供養料　観音像　A（三三糎）五千円　B（二五、五糎）三千円

御払込次第御仏壇用小観音（一八、八糎）を御送り申し上げます。

御払込先　埼玉銀行名栗支店　又は　埼玉銀行練馬支店

御申込書送り先　鳥居観音　埼玉県入間郡名栗村　電話　〇四二九七〇四　名栗二七五番

同　東京事務所　練馬区小竹町一ノ五二　電話　九五五・〇四六五番

御一名様で観音像を何体申し込まれても差支えありません。

## 終った夏の行事

○八月十六日、名栗の盂蘭盆、本堂で午後五時、申し込まれた灯ろうの法要、導師は有馬忠直老師勤修、本堂に飾られた数百の絵灯ろうには一霊ずつ戒名又は何何家先祖代々霊位としたためてある。夕刻からこれを名栗川に運び、午後七時地元梅花講員のご詠歌奉詠にしたがって、灯ろうに火を点じ一灯ずつ流灯された。沢山の灯ろうが流れにのって、波にゆられながら、つぎつぎと浮ぶ。そのあかりが川面にうつる様は一幅の絵まきのようであった。これを見物する人達は名栗川畔に立って、かんがい深い面持ちで見入っていた。中には観世音センターにお泊りになって、ご自分で灯ろうを運んで火を点ぜられ流される方も多かった。

流灯法要が終る頃、河原からは、数百発の花火が、次ぎ次ぎに、打ち上げられて、こだまする間に、色々の色彩が織りなされて、夜空は美しくいろどられた。

つづいて、仕掛花火に火がつけられると、いきおいよく火は廻って、名栗川の上に涼しい滝がかけられた。しばらくすると、白雲山の紅葉と、三蔵塔、後の百花園といった風景に、観衆はどっと歓声をあげた。

一方センター前の広場では、花にかざられたやぐらを中に、スピーカーから流れ出る民謡に、多くの観衆の中から、踊りましょうよ、あなたも……わたしも、そしてお前も、といつか大きな輪がつくられて、盆踊り大会のふん囲気がかもし出された。

揃いの浴衣の婦人に混って、あざやかなワンピースや、ミニスカートの若い女性も、浴衣がけの青年も皆たのしそうであった。

## 秋の行事

○九月二十四日（秋彼岸）念仏会
午後一時から近隣の婦女子によって、本堂で大きな珠数をたぐりながらの、念仏会

○十月十七日　月例法要（毎月実施）
この頃から紅葉がはじまり、約二カ月見られます。尚その他の行事は表紙の裏面参照ねがいます。

鳥居観音のしおり　第十六号
発行日　昭和四十五年十月一日　毎号定価弐拾円
編集兼発行人　埼玉県入間郡名栗村鳥居観音　岡部千三
印刷所　浦和市仲町二-八-一五　武州印刷株式会社
発行所　鳥居観音　電話〇四二九七〇四（二七五番）
〃　（　五番）

# 白雲山 鳥居観音 観世音センター案内図

琴比羅神社
棒の峰
秋葉山
有間渓谷
面白岩
三蔵塔
白雲楼
見晴台
大観音
大黒殿
蛇の目型四阿
観音滝
子育地蔵
仁王門
玉垣門
梅月楼
梅鉢の墓
諏訪神社
稲荷神社
墳墓
本堂
鳥居文庫
炭谷川
駐車場
ますつり場
観世音センター
水泳場
父峠
至丸峠
観世音センター前
八高線
至高崎
こまがわ
名栗川
飯能市
川越
豊岡
所沢
至八王子
新宿
池袋
浦和市
大宮市

# 白雲山鳥居観音
# 開山三十周年記念行事

## 十一月七日(土)挙行

**秋の例祭及び三十周年記念祭** 本堂に於て10時より

**玄奨三蔵法師法要** 三蔵塔に於て11時より

その後救世大観音建立現場参観及び境内探勝

**観音さまのお心のはなし** センター広間に於て

**山田霊林先生** 1時より

文博、大本山永平寺副管首、前駒沢大学総長
曹洞宗北米開教総監、前全日本佛教会副会長
いつまでも心の糧となる良いお話です。

**アジア民族舞踊** センターに於て2時30分より

**指導　榊原帰逸**

インド・インドネシア・フィリッピン等、佛教舞踊としては
世界唯一のアジア民族舞踊です。
センター入場ご希望の方は寺務所で入場券を受け取り下さい。

## 大黒祭

**十二月十日(木)甲子**

**大黒殿にて執行　11時より**

商売繁昌の祈禱を致しますので広くご信仰家各位のご参列をご案内致します

## 46年辛亥 新年祈禱会

**一月元旦より七日まで**

**本堂に於て毎日　10時より**

祈禱料　参百円・七百円・千円
願　意　家内安全・身上安全
傷病平癒・商売繁昌
安　産・交通安全

**御申込は早めに願います**

除夜の鐘　昭和45年12月31日午后11時45分より　本堂に於て